

## 2025年度 第1回 鋼構造座屈小委員会議事録(案)

1. 日時 2025年7月31日(木)13時30分～17時10分
2. 場所 建築会館 会議室301
3. 出席者 五十嵐規矩夫, 宇佐美徹, 金尾伊織 (主査), 木村祥裕, 倉田真宏, 小橋知季  
田川浩, 松井良太, 三井和也, 城戸將江 (記録)  
(敬称略, 下線は欠席者)

### 4. 配付資料

- 01-00\_2025年度第1回鋼構造座屈小委員会議事.docx
- 01-01\_2024年度第4回鋼構造座屈小委員会議事録案.docx
- 01-02-1\_2025年度第1回鋼構造運営委員会議事予定.pdf
- 01-02-2\_資料01\_05\_2\_接合小委員会\_溶接視覚教材アクセス用ページ案250319.pdf
- 01-02-3\_資料01\_18\_耐火設計小委員会 大会研究集会予告原稿v1r.pdf
- 01-03-1\_資料02\_01\_2025年度第2回鋼構造運営委員会議事.pdf
- 01-03-2\_資料02\_03\_構造本委員会の動き.pdf
- 01-03-3\_資料02-05-2\_視覚教材公開方法・査読について\_20250728.pdf
- 01-03-4\_建築学会のデジタルコンテンツ公開方針: 理事会承認資料20250303, No.11-2データ公開とV&V WG報告書資料1.pdf
- 01-03-4\_資料02\_18\_■-PD-鋼構造耐火設計小委員会2025-0728-v0-small.pdf
- 01-03-5\_資料02\_20\_時刻歴耐震設計PDに向けて260729.pdf
- 01-04-1\_04章\_梁材-本文-250722.docx
- 01-04-2\_04章\_梁材-解説-250731.docx
- 01-05-1\_5章柱材-耐力-解説-20250731-kido.pdf
- 01-05-2\_05章03節以降\_柱材-本文-250725.pdf
- 01-05-3\_5章柱材-耐力-本文-20250731-kido.pdf
- 01-05-4\_05章03節以降\_柱材-解説-250725.pdf
- 01-06-1\_6章目次案\_250731.docx
- 01-06-2\_06章\_板要素\_本文\_原稿案\_0731 .docx
- 01-07-1 answer\_sheet\_重要事項\_岡崎先生\_20250711\_TO2.docx
- 01-07-2 20250731\_佐藤篤司先生の再々査読.docx04-04-0 第3回座屈小委員会議事次第 (金尾)

### 5. 議事内容

#### 資料01-01

・資料01-01に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された. 議事録内の「4章の冒頭に横座屈の現象と対応する指針の項目がわかる表を載せる.」については具体的にどのようなものか確認することとなった.

#### 資料01-02-1～3, 01-03-1～5

・鋼構造運営委員会の第1回議事録について金尾主査より説明がなされた. 諸問題英文化について, 岡崎先生, 佐藤先生の再査読への対応について回答をいただいている. 接合小委員会のデジタル教材の査読に関して, デジタルコンテンツの公開方針があり, 公開方法に応じて査読の有無等が異なるとの説明があったとのこと.

#### 資料01-07-1~2

- ・ 諸問題英文化の再々査読への対応について、岡崎先生、佐藤先生の回答について松井委員より説明がなされた。
- ・ 概ね了解を得ているが、5章については座屈長さのとり方の記述について原著者に確認する。4章についても図の修正などを行う。
- ・ 8/6（水）までに対応する。8/15（金）までに岡崎先生、佐藤先生に再々査読を依頼する。用語の統一を行ったうえで8月末までに構造委員会査読用原稿を事務局に提出する。

#### 資料01-04-1~2

- ・ 4章梁材について、金尾主査より説明がなされた。
- ・ 本文に「解説C4.2.2に記載している。」とのみ書かれているが、それだとわかりにくいので、どういったパラメータで整理しているのかなどもう少し内容に触れる。
- ・ 4.2の補剛について、4.2.1（制限値）と4.2.2（連続関数）の表現について、統一性を持たせるのか等検討する。
- ・ 梁の履歴の作り方を本文、解説どちらに掲載すべきか検討する。
- ・ 耐力や変形能力の式をどのように使えばよいか示されていると、設計者にとっては使いやすい。1章あるいは序論に、宇佐美委員が評価式などの使い方を掲載することとなった。
- ・ 4.1節において、横座屈と局部座屈のいずれか小さい方を採用すると記す。
- ・ 他の指針との整合も気になるので整理する。参考までに、塑性指針の評価式とは異なるし、塑性指針では横座屈しない範囲での話となっている。

#### 資料01-05-1~4

- ・ 5章柱材について、城戸から耐力の部分、三井委員から変形能力の部分について説明がなされた。本文と解説が対応するよう現行指針から節、項は変更している。
- ・ 各断面形に対する断面耐力は削除する。
- ・ CFT柱の長柱の耐力評価式と鋼柱の耐力評価式の対応はどうなっているのか。CFT規準（執筆中）においては、細長さの指標を鋼柱の細長比とする予定である。解説に入れるか検討する。
- ・ 耐力の部分は用語、記号の間違いもあるようなので見直す。梁の章とそろえることができれば早い段階でそろえる。
- ・ 図があったほうがよいもの（断面や曲げモーメント勾配）は入れる。
- ・ 記号が多いので、リストを指針の最初に掲載するなど表記方法について今後検討する。
- ・ 各規準、指針の設計式は掲載するが、現在のような式の羅列ではなく建築基準法との対応を示す。限界状態設計指針からは式がなくなる予定とのこと。
- ・ 軸力および圧縮力の正負と座標系について議論した。柱材では圧縮力を正と考える。
- ・ できるだけスリム化していく方向性で考える。

#### 資料01-06-1~2

- ・ 6章板材について、小橋委員より説明がなされた。
- ・ 本文と解説が対応するようにすることと、削除できる内容は削除する。
- ・ 現行指針の構造ランク別部材の寸法制限などは表として残すのではなく、現行指針図6.4.10のように、鉛直線で示すようにするとよい。
- ・ 幅厚比のとり方について、規準、指針によって異なる。座屈設計指針においてフィレットを含むべきか議論となった。各章ごとに状況把握し検討する。

#### 次回委員会に向けて

- ・本日の議論を踏まえて、執筆をつづける.

#### 6. 次回小委員会予定

日時：2025年11月5日

場所：ハイブリッド（京都工芸繊維大学）